

すわみつえ通信

No.123 2020年5月11日(月)

日本共産党鴻巣市議会議員

諏訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL: 596-9440 FAX: 507-4151
携帯: 080-5039-2785
E-mail: mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



ホームページで、すわみつえの政策とお約束をご紹介します。

福祉・教育最優先の街づくり 市民の声を生かし いのちとくらしを守る市政に

緊急事態宣言で休校が続いている中、市内の小中学校では5月7日に1か月遅れの入学式が執り行われました。子どもたちの嬉しそうなお声は、聞こえませんでした。新型コロナウイルスが早く収束することを願わずにはいられません。

この間、すわみつえ通信読者の方々に電話させていただきました。「連休だけど孫にも来るな」と言っているよ。「皆が苦しい毎日を送っているときに、なかなか楽しい気分になれない。電話もうつてよかった。ありがと。」「孫3人の面倒を見ている。孫たちが思いつき声をだせないので、孫たちが思いつき声をだせませんが、お話を伺うことで私も元気になりました。」



校庭での次第等を短縮した5月7日の「ピカピカの1年生の入学式」=鴻巣市立鴻巣中央小学校のホームページより

みなさん お元気ですか

鴻巣市のホームページを見ていたら、公立保育所の保育士さんが動画で園児と保護者の皆さんにメッセージを送っています。こういった試みも大事ですね。子どもたちが元気で過ごせますように。

緊急事態宣言の延長は「自粛と一体で補償を」

政府は、新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐための「緊急事態宣言」を、全国を対象に5月末まで延長することを決定しました。今度こそ、「自粛と一体で補償を」の声を大きくし、実現する必要があります。

日本共産党は、医療体制の逼迫を打開して、局面を変えることと、安心して休める補償を求め、第2次補正予算案をただちに編成することを求めています。

当面のくらしや営業の困難を支援するために活用できる制度もあります。自動車税・固定資産税の納付書が届き始めました。公共料金の支払いなどの猶予制度をご紹介します。

税金などの減免は

2月からの一定期間(1か月以上)で収入が前年同月比で20%以上減少した場合、納税が原則1年間猶予されます。担保は不要で、延滞税は全額免除。固定資産税などの軽減も。電気・

ガス・水道など公共料金については、3月25日から支払い猶予の受け付けが始まっています。
*問い合わせは、税務署、市役所、各事業者へ

鴻巣市の状況は

国の緊急事態宣言の延長を受けて、鴻巣市は5月7日開催の「第6回新型コロナウイルス対策本部会議」にて次の決定をしました。

- 小中学校の休校 5月31日(日)まで休校を延長
- 公共施設の休館等 市役所・両支所以外の公共施設(図書館含む)の休館を5月31日(日)まで延長
- こうのすシネマ 緊急事態宣言が解除されるまで休館を延長
- イベント 5月31日(日)まで中止又は延期
- 啓発活動 5月31日(日)まで防災行政無線及び青色回転灯装備車両による防犯パトロールにて外出自粛の呼びかけ

俳句コーナー

窓開けて地球に
おはようよろしくと

瑠璃子



毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。

*新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5月31日(日)まで駅頭でのお届けはありません。

バンクシーの新作、病院に イギリス、 医療従事者へエール 【ロンドン共同】



今年5月は「母の月」に一。新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、10日の「母の日」前に生花店が客で混雑したり、花の配送が集中するのを防ごうと、5月の1カ月間を「母の月」として花を贈ってもらう動きが広がっている。

「母の月」は、花の業界団体で構成する日本花き振興協議会が打ち出した企画。毎年5月第2日曜日の「母の日」は花の需要が高まることから、店員や客、配送業者が「3密」の状態に陥ることを避けるため、1カ月間にわたって花を贈ろうと呼びかけている。 【埼玉新聞 5月4日付】

素性不明の芸術家バンクシーが5月6日、看護師をモチーフにした絵画の新作を公表した。BBC放送によると、作品は英南部サウサンプトンの病院に飾られた。新型コロナウイルスの感染が各地で広がる中、医療従事者に向けてエールを送る作品となりそうだ。

写真共有アプリ「インスタグラム」に投稿された新作には、マントをまとった看護師の人形を掲げた少年が描かれている。傍らには、米コミックの人気ヒーロー、バットマンとスパイダーマンの人形が置き去りにされ、少年が看護師を「新たなヒーロー」に選んだことを表現したようだ。BBCによると、絵画は1メートル四方の大きさ。モノクロで、看護師のエプロンの赤十字だけが赤色で描かれた。病院の協力を得て、救急病棟の待合室に飾られている。

バンクシーは「作品は白黒だが、この空間がぱっと明るくなることを願っています」とのメッセージを寄せ、病院の職員らに謝意を示した。作品は今秋ごろまで飾られた後に競売にかけられ、収益は英国の国家医療制度(NHS)のために寄付される予定。バンクシーは英国出身とみられている。 【共同通信 5月7日付】

きょうの潮流

しんぶん赤旗 電子版から

2020年5月4日【1面】

“みんなちがって、みんないい”。薄幸の詩人・金子みすゞの代表作「私と小鳥と鈴と」は、それぞれの個性や価値を認めあうことを呼びかけます▼亡くなった憲法学者の森英樹さんがよくこの詩を紹介していました。憲法13条が保障する「個人の尊重」の精神を見事に伝えていたとたたえて。世の話題から縦横に憲法に入り込んでいった森さん、きっと憲法が日常にあることを人びとに伝えたかったのでしょう▼いま、コロナ禍の生活のなかで憲法が目目の現実となって表れています。国民の生命、自由および幸福追求の権利をはじめ、生存権や財産権の保障、移動や仕事の自由や教育を受ける権利―。さまざまな条項が重なりあって▼しかし、それが侵されている状況で政治は責任を果たしているのでしょうか。政府のイベント自粛や一律休校要請から2カ月余、緊急事態宣言から1カ月が過ぎますが、補償どころかマスク2枚さえ届かない。公が私権を制限しながら、命とくらしを守らない状態が続きます▼そのうえ安倍首相は、緊急事態に乗じて改憲や9条への自衛隊明記を必ず成し遂げる決意を口にしています。NHKの世論調査でも8割近い国民が、憲法以外の問題に優先してとりくむべきだと答えているのに▼安倍改憲の発議を許すなとインターネットでつながった今年の憲法集会。ジャーナリストの堀潤さんは「民主主義の対義語は沈黙」だと。みんながそれぞれの声をあげ、みんなで支えあう。憲法を生かした社会をつくるために。